

(補) 聞き取り調査の記録 (宮城県石巻農業改良普及センターの事例)
9月8日(火) 9:30~12:00

聞き取りに応じていただいたのは3名、質問者は2名である。

①大災害という異常時における迅速な情報収集の重要性と収集の進め方
②収集した情報の共有化と伝達の方法

質問 では早速お願い致します。最初に1番目の大災害という有事における迅速な情報収集の方法と進め方ということで、迅速にこだわらなくて結構ですけれども、震災時の情報収集は大事だということがアンケートで強調されておりましたので、その収集の方法も非常に難しいということを強調されておりましたので、その辺のところからまずは伺いいたします。5年前のことで古くなっていて恐縮ですが、よろしくお願い致します。

○情報という内容にもよりますが、震災直後は、情報が何も無い状態でしたので。しかも、普及センターは庁舎自体が被災をしていて、車もなく、1台くらいありましたかね。事務所自体が浸水したということと、電気が当時駄目になったので、WEBも駄目で、したがって携帯の中継局も駄目になり、ずっとつながらずに、そういう意味の情報収集は、数週間ほとんどできなかった。ただ、一部携帯が繋がったり、一部メールが繋がりましたので、少しずつやり取りをしながら。あとは衛星携帯が配布されたので、それでもやり取りがあったのですが、限られたところへの通信ですから。ただ、我々の興味は地域がどうなっているかという情報をすぐにほしかったので、まずは車を、機動力がないとどうしようもないので、車を借りて内陸の庁舎に行きました。それによって、機動力が出たので、調査に入って、どこまで津波が来ていたのか。水は来ているのだけれども、本当に塩水なのかというエリアを調査したり。それから知っている人、農業士とか、生活研究グループの方々を中心に情報収集をしながら、地域全体の情報収集をしていったという感じでした。

○庁舎全体でも各部、漁業、林業、農業、同じような感じでそれぞれ車を借りて、情報収集を行ったということでした。事務所全体でも、1日に2回、朝とか情報共有しましたし、普及センターも朝と夕方にも共有したという感じですね。当時はそんな感じでした。

○もともと、石巻合庁には【あなた】とか。

○私しかいませんでした。

○私たちは出張でなくて。

○3月11日は卒業式とか、県の出張が重なって、すごく多かった日なんですね。会議とか。事務所の3分の1しか人数がないような状態で、部長も出張でいなかったですね。仙台の方でしたね。事務所の職場の上司と言っても、総括だけでした。一人しかいなかったんです。

○そこに、車とか、機材とかがありました。周りの人たちがみんな逃げてくるし、建物もいっぱいになっているし。電気も来ないし。パソコンも駄目になるし。避難所みたいになった。

○避難所でないのに避難所になってしまうと。そんなに統制をとれて、誰が何をすることが決まっていなかった合庁なわけですから、やれる分でみんながそれぞれやっている状態です。ただ、うちの部としてできることは、ここが脱出できた時には、まずは電気も通っていないので、自分たちが、今どこが無事で、どこが駄目かさえもテレビもないのでわからないですね。車で見て、まず調べるにあたって、車は1台しか残っていなかった。

○合庁が被災して、あれは金曜日か。月曜日にみんながそこから逃げてきた。

○3泊4日して。

○我々は外の他の下水道事務所という水が来ていないところに間借りをしていたわけですよ。そこに集まってきたわけですよ。水があって行けない。

○合庁が水の中であって、水が引かないものですから、中に来ようと思ってもこれなくて。私たちも連絡する手段がなくて、ここを出てもどこに行けばいいのかという話ですね。出れたときに、自衛隊から助けてもらって、水がないところまで運んでもらった時には、農業振興部の職員は、皆さんが集まっていたところに行くという流れにちゃんと一応、ルートがなってくれたので、4日目にして合流できたので。今度はその仮のところで数日間、ロビーをお借りして、他の部もほかの廊下で対策会議をして、その廊下からまずは始めたわけですよ。それぞれの部で何をチェックしなければいけないのか。私たちは農家が無事だったかどうか。どこまで被害があったか分からない。道路もない、地図もないという状況だったので、まずは動ける方が車の手配をしながら。

○軽が1台しか残っていなかったの、4人乗って。

質問 借りに行ったというのは、内陸の普及センターで？

○そうです。普及センター同士では良いということだったんですが、振興事務所の上の人から駄目と言われて、1台も借りられなかったんですよ。

○他のところの支援に行かなくてはいけなかったからということで、貸していただけなかったと思うんですけども。他の沿岸部の本古の方も、車がなくなっている状態で。

○大崎に行って、大崎で借りられて、車とガソリンをつけてもらったんですね。2台くらい。あと、美里の普及センターとか。それでやっと足ができた。

○皆で状態を把握できた時も、普通はパソコンに落として、紙で出して、回覧とはできないんですよ。手書きで毎日の活動を何日かして、1冊のノートに書いてきましたね。

○合庁にパソコンも紙も、名簿も何もかも置いてきたので。皆、着のみ着のまま逃げてきて、そこではじめて。まずは最初に自分のことだったんですね。

○車で先陣が来て、どこに落ち着かせるか議論をしたんですよ。近くの NOSAI の建物ですね。そこに居場所を作ろうと。

○NOSAI の2階のところが会議室になっていて、空いている状態で、その2階のところを普及センターの事務所にさせてもらったんですよ。

○被災直後は県の東部下水道事務所というところに寝泊りをしていたんですよ。その時は衛星携帯が1台やっときて、そこは災害対策本部みたいな形で、避難物資がどこにあるかという話がまずはあった。あとは職員の安否確認をずっとやっていたんですね。そのうちに、そこから2、3日してから、NOSAI の2階を農業振興部長が借りてきて、あとは土地改良の人たちは農協の2階とか。

○入れなくて、農協の情報センターを借りて。

○商工も農協の2階で。

○自分たちのパソコンもない状態だったので、自分たちの生活や仕事できるような環境を整えるのが本

当に大変で、電源さえない状態だったので。

質問 それこそ紙と鉛筆しかない状態？

○紙と鉛筆もないんですよ。他の事務所のたまたま残っている、「良いよ」ともらえる裏紙だとか、書き落とす地図を全部もってきて。

○NOSAI でコピーを取らせてもらって、FAX を使わせてもらって出来たんですが、まず、拠点が無い。拠点を確保して、NOSAI である程度寝泊りをしているんですけども。

質問 職員も家に帰れる状態ではないと？

○職員も車をなくしているので。電車で通っていた方は、もちろん電車は通っていないですし。

○1 回来たらそこに居るしかないんですよ。

○交代で 1 台の車で家に帰って。

質問 食料は災害時の何か備えがあるんですか？

○合庁の外の 1 階の津波が来たところに物置があって。そんなことをしちゃ駄目だったんですね。津波が来ることを想定すると、そんなものとか、発電機を上に乗けないといけなかったんですね。そんなことを考えていなかったですよ。自家発電は直ぐに駄目になって、支援物資もすぐに水につかって駄目になってしまって、拠点を構えても、私たちの食料が駄目になって。

○実は普及員で農家をやっている方から米を買って、朝晩に事務所全体で炊き出しをしたんですよ。

○限られた車で情報収集するグループと、私たちはどちらかというと女の人を中心にごはん炊きをして、みんなを送り出すという感じなんです。市町村の派遣があるので、一緒に手伝う必要がある。

○市町村に 2 泊 3 日で行って来いと言われると、市町村の災害対策本部に県職員として行って、そこで寝泊まりをして。避難所の派遣もあるんですよ。県職員として、市町村派遣と避難所は、安定するまでは。

○数週間はずっとそれでしたよね。4 月いっぱいはやっていましたよね。

○避難所も 5 月いっぱいくらいやっていましたよ。

○ずっとやっていましたよ。塩害対策会議をやったのが 4 月でしょう。その後、ずっとしてから、今度は専修大学の体育館を県として借りてね。

○事務所が分かれているのはうまくない。実際は 4 か所くらいに分かれたんですよ。それはうまくないと副知事が言われて、何とか専修大学にお願いをして、体育館を借りて、そこに振興事務所とか。

○土木は入っていないんじゃないですか。合庁に情報収集機器、資材が全部あったので、それがなくなってしまって、いけない状態なので。

○水浸し。道路もなくなった状態で機器を持って来られない。資料を持って来られないというのが一番大変だった。

○だから名簿とか。水がひいたあとは車に乗せられて合庁からとってくる。

○本当に必要なものを数日くらい乗せて行ってもらって。その車自体貴重なので。ガソリンもそうですよね。ガソリンが手に入らなくて。

○合庁宿泊もありましたよね。

○全部留守にすると危険なので。あとは安否確認のために近所の人が来てたので、その人を待遇するというので。

○ガソリンの調達は、地元の農協にお願いをしたんですよ。少しずつ協力してもらった。あとはみんなで情報収集して、給油可能なガソリンスタンドの情報を共有しました。

○普及センターに来られない人とか、ずっと事務所にいるだけでも疲れてしまうので、人のやりくりが大変だったと思いますね。あとは車とか、資材とか、何もない状態なので。情報収集は紙と携帯。

○職員同士の連絡も取れないので、明日の朝何時に車で迎えに行くねということを休んだ方に伝えるのも大変だったんです。

質問 最初、手書きでと言っていましたね。そういうのは今後貴重な資料になるんじゃないですか？

○ノートは本当にありますよね。けれど、私たちもそれぞれ転勤をしてしまったので、持ってくるわけにはいかない。事務所にあると思いますが、貴重だと思っていれば残っているでしょうけれども。

質問 誰かが管理をしていないと捨てられてしまう。こういうのは貴重だと思いますが？

○内陸の美里普及センターで書いてあるのは冊子になっているので。残しているもので、捨ててはいないですよ。石巻でもありますよね。

質問 先ほど農業士の方と連絡を取っているとお話がありましたよね。実際に農家に連絡を取り始めたのは直ぐに？

○それはできないですよ。皆さん避難所の連絡で。

○まず、来るんですよ。最初は NOSAI に普及所があるというのが分かって、地域の人が来たり、農協の人が来るんですよ。来る人の相談に乗るじゃないですか。最初は。

○でも、それは被害の少ない人なんですよ。ひどい人は来られないので。何かできる人たちが相談に来ていました。

○ひどく被災している人のところにも私は行きました。それで話を聞いて。

○ひどい、ひどくないというのも人づてということがありますよね。農協でみんなで話を聞いてきて、あの人は大丈夫なのかという話をして、ある程度分かってきて、大変だから行こうと。

○津波が来ている人と、来ない人では全然そこで分かれ目が違いますから。

○同じ地区でも、来たところと来ないところでは、温度差がありますね。

○家のある人とない人とね。全く何もない人と。

○家族みんなを失った人と。

質問 石巻の場合は津波と地震そのものの被害もかなりあるんですか？

- ありますね。合庁自体も数十センチ地盤が下がっているの。
- 内陸部も家がなくなっている人がいっぱい。
- 津波が来なくても、それなりに全壊みたいな。
- 津波で無くなったのと、地震で無くなったのでは違うんですね。地震の場合は残っているの。使えるものが近くに残っているの。津波の場合は全くないので。
- ちょっとでも資産が残っていると違うんですよね。古い機械でも。
- 全く何もないとね。
- でも、市町村をお願いをして、認定農業者は全部調査をしようということで、やったのと、結構園芸地帯でもあるわけですから、大きな園芸農家に必ず行こうということで、2 チームで聞き取り調査に行きました。

質問 市街地の沿岸部が園芸が盛んで？

- そうですね。津波が来たところは園芸作が多いですね。

質問 その方々は避難所に？

- そうですね。どこにいるかわからない。
- 避難所に支援物資がある程度計画的にちゃんと来るようになった状態で、私たちも動き始められた気がしますね。
- 1週間後くらいだね。
- 最初は津波がどこまで来たとかという話ですよ。田んぼの話ですよ。農地がどうなっているかという話を。
- 田んぼとハウスだったね。
- 人はその後だよ。
- そうですね。建物があるかどうか、農地があるかどうかという被害の大きさを把握してから。
- ハウスと田んぼの状態だったね、最初は。除塩については、各機関が関係したので。たぶん、1,000ha弱は除塩をして。園芸も結構ボランティアが来ていただいて、最初は直らないと言っていたんですが。そうするとやる気がね。
- 情報収集はちょっとずつでしたね。
- そういうツールを用意していなかったですね。全く。
- そういう時にどうするとかはなかったね。
- 事務所の携帯くらいはあったかな。ツールはないね。

質問 今は大震災でビジネスコンテニューと言っていて、農協は結構やっているんですけども、普及センターでこういうときにはこうやるというマニュアルを整備されたんですか？

○県自体は検証していると思いますが、お金が伴うことですので、合庁も今度新しく内陸の方に移転しますよね。今、来たらまた終わりですよ。1階に全部公用車を置いてあるので、また公用車はやられるでしょう。

○そんなにすぐに変えられるわけではないので。原状復帰ということで。

○電源装置を1.5mあげましたと言っても、あれでは無理でしょう。今、来たらアウトです。また同じことです。公用車は全部1階に置いてあるんですよ。津波警報が出たらみんな逃げだして、渋滞で、どこにも行けない。津波が1m来たら公用車が全部駄目で、足の確保ができないわけですよ。今度、合庁を移転して、水が来ないところになったんですが。

○何を本当に守らなくてはいけないのか考えておかないと。

○まずは、人がどうなっていたかということだったんだよね。

質問 農家もどこの避難所におられるかということは最初全く分からない？

○全く分からない。正直、どこに避難所を開設しているのか。避難所を開設できないところもあるじゃないですか、津波で。そういうのを徐々に教えてもらいながら、どこどこに誰々さんがいるらしいと聞いて。

○そういうデータはあるんだから、あとは合庁に行ってとってきて、それを使いだしてからだね。

○そうですね。

○拠点が無いのがつらいですね。

○情報を整理できるようになってから、本当に良かったんですよ。

○パソコン、プリンターがないからね。持って来られないですから。

○ネットもつながらない状態で。でもNOSAIにいる時にやっとなつなげてもらった。

○10日か2週間で水が引いてきたんですよ。

○それまでは自分たちが使う水さえもなく、当番で水を貰いに行く。自分たちの生活の方をしないと、みんなが動けない。ガソリンももちろんそうですし、パソコンさえもネットにつながっているのは1つだけありましたよね。

○私物で持ってきたやつ。

○あと県庁にお願いをしたら、1つだけつなげられるような端末を特別貸し出してもらえたんですよ。それも言わなければ貸し出してもらえなかった。そういうのさえも分からない。

○県全体の職員ポータルサイトにつながるようになってから。他のところで。

○他のところの情報ね。

○気仙沼合庁が無いとかの話で。隣がどうなっているかわからない。

○テレビや新聞でもらう情報と、私たちが求める農家向けの情報は全く違うので。それをポータルでやっと写真をアップしてもらって。

質問 それは県が開いた？

○常時つながっているサイト。職員ポータルがあって。

○県職員が見られるサイトに、それぞれの事務所の。皆さん忘れなかったのは、デジカメを持ち歩いていたので、震災当時から写真を撮っていたんですね。撮っておけと言われました。なんでもいいから撮っておけと。だから写真はたくさん撮りました。

○写真だけは膨大なんですね。でもそこに位置情報とか、これが何の写真とか、いつとったかというのは、そこまでついているデジカメはね。

○探せばデジカメについているけれども、そこまで整理はしていませんね。

質問 昨日の亘理の皆さんからの聞き取りで、写真を撮って送っていたというのはポータルなんですね？

○亘理普及センターは事務所に水が来ていないからね。

○動ける車もたくさんあって。

質問 石巻の方は事務所そのものが？

○車もなくて。

○形は残っているけれども、水の中で、電気も水道も書類もガスもない。

○人しかいなくて。

○気仙沼は全く何もない。

○書類も流されてね。

質問 石巻は最終的に戻られたのは何か月後？

○合庁に戻ったのは、秋ですよ。暑い中、体育館で熱中症になりながら仕事をしていた。

○合庁引っ越し作業は9月24日とかだったですね。

○半年遅れたんですね。

○それまでは、体育館。クーラーもなくてね。

質問 合庁に戻って、普及センターは水も被った？

○大丈夫です。1階は駐車場になっているので、2階からだったんですね。津波が来るといった時も、もうすぐに上がるといった時も、私たちはそれよりもパソコンを全部しまつて、上にいつでも持ち出せるように準備をして、1回持ち出したんですが、結局夜になっても津波はそこまで上がらなかったの、

パソコン、書類を残したままで、3日後に自衛隊で、持ち出せるような状態ではないので。避難なので。

○石巻専修大の体育館はワンフロアになっていたんですね。避難所に半年間は居たような感じだったんですね。この時はパソコンとかつなげたんだよね。7月に異動があったんですね。

○県庁の4月定期異動が遅れて。

○私とかは6月。

○数名だけ一か月早かったですね。

○整うまでは大変でしたよね。

○上の方が着くなり異動して、調整してくれていたの。私たちは環境が整ってから仕事のできた感じで。

○だんだん良くなっていったんですよ。最初は下水道事務所を借りて。

○自分たちのごはんが大変だった。

○そこからNOSAIの2階に行って、専修大学の体育館に行って。

○体育館に来た時には、少しだけ書類とかを持ち出しして、なんとなく書類がある中でやっと仕事ができるような状態だった。

質問 合庁に戻られるような頃になると農家と連絡をとれるようになったんですか？

○体育館のころからある程度大丈夫でした。

○体育館は結構来ていたね。

○NOSAIのあたりから調査に入っていましたので。

○本当に被害があったけれども、志の強い方は3月末には数名で相談に来ていたんですよ。Aさんとか、B農業法人とかは。その時期に農協が主催で何かやったんですかね？その前に地域の若手が集まって、意見交換をして。

○集めてもらった。二人で行ったんだ。

○塩害対策会議を4月8日にやっているんだ。

○避難所にいた方にも声をかけてもらって、今後どうしたいとか、何がやれそうかという話を1回してもらっていたんですね。

○結構会議をやっていたんですね。塩害の会議をね。1回、2回と。田んぼの方ですね。

○農家が集まるような会議はそこが始めだった。農協や共済が入っての塩害対策は定期的にやっていたんです。

○園芸は4月13日もやっていた。

○それでないのもやっていた。

○いろいろざっくばらんに話を聞きながら。

○それをやるためには、何か案がないと駄目だということで、何だかんだと作ったんだ。

質問 田んぼは3月に被害を受けて、その年に？

○被災の程度があるので、その除塩作業を直営の農家事業でやっているんですよね。そこで植えたところもあるんですね。

○水を大量に流して、ある程度濃度が薄まったところであれば、すぐ植えられたところもあります。

○代かき3回以上とかね。ECメータを持って行ってね。

○場所の地域分けですよ。やれそうな地域と、本当にきちんと重機で泥さらいしなければならない地域と。

○営農的な努力でやれるところはまずやったんですね。土木的な土地改良事業とかのところは、すぐにはできないわけですよ。

○事業の計画がないとね。

○後付けで営農関係の除塩事業とか、国で考えてくれたんですが、最初は何もないわけですよ。基準もないし。たぶんあるだろうということで、記録だけはつけておけど。

○もともと、災害対策事業はあるんですよ。

○あと、そのうち客土しなければならないとか、土が何センチだとかというのは土地改良事業でできたんですが、水だけ来たところはあるんですよ。あとは物理的に砂をかぶったところは後の話で。まずやれるところからという話。

○そうですね。やれる人たちからだけでもやろうということで、3月に震災が来たときは田んぼの準備をしている方がいっぱいいたので。1回水をつけて止めたけれども大丈夫かねと相談がいっぱいありました。

○あと水路とか、水の方もやられているので、用水関係もパイプラインが通じないとか。だから北上川から上げているところは、全部やられているわけじゃないですか。上流の方で。

○それを復旧させたのが一番ですね。

○5月下旬までに苗をもっていけないといけないということもあったりして大変だった。

○大豆なんか、大豆と水稲で1,000haくらいだったと思いますね。

○大豆はやられたんですよね。

○塩害の影響が。水を張っていないから。

○水稲はよかったよね。

質問 確認ですが、普及センターの中での情報共有化というのは、さっきのように手書きでノートを作って、そういうのが情報の共有化？

○細かい相談が来た時にこういうような指導をしたという感じで、ちゃんとまとめていたのがあった気がしますね。途中から紙を作りました。パソコンとかプリンターを使ってその紙を打ち出せるようになった時期から。

質問 それは普及センターの中での共有化と？

○あとは朝晩の打合せ。事務所全体もあるし。

質問 事務所全体ということは土木も？

○土木も来た。

○最初のころは、NOSAI にいたんですね。あと、ここに JA があって、あと水産関係とか。農業・農村整備とか、いわゆる総務系の人がいたんですね。ここで会議をやるときには行くわけですよ。あと、我々は毎日 NOSAI の 2 階を借りて会議をやっているわけですね。

質問 それは歩いて行ける場所？

○貴重な 1 台の車で。

○車で 15 分くらいですか。10 分くらいですか。歩いてはいけませんね。

○移動手段がないと、何もできません。

○最初は信号がなくてかえって早かったんです。

○皆、車もないし。

○信号ができると渋滞が。

○ここは津波が来ないところですよ。合庁がここら辺にあるわけですね。ここにものを取りに行ったりしているわけですよ。

○ちょっとずつそろえていったわけですよ。

質問 最初はボートで脱出したの？

○ゴムボートで。大きな建物の周り全部 1 階と 2 階の間の踊り場まで水が来ましたので。

○3 日目の夕方に自衛隊の方たちが、他の一般の方が優先ですから。合庁は大丈夫だから、最初はそっちをやってと。自衛隊のヘリが到着をして、具合の悪い方を助けて、あなたたちは明日ということで、数名ずつ何十回もやってもらった。

質問 合庁にも近所の人避難してきた？

○皆さん怖くて、大きな建物、県の建物だからと避難してきた人達が多かった。私達も誘導しました。車もこっちに入れなさいと言って。全部津波でだめになったんですが。建物は危ないからこちらにどうぞと言って、何百人。

○合庁に人が集まってくるんですよ。1 階とか 2 階の建物はほとんど駄目だったから。ここは何階だっ

け。避難場所は5階と6階で、普及センターは2階ですよ。公用車は地べたですね。

質問 普及センターは水を被るギリギリだったんじゃない？

○パソコンをいつでも持ち出せるように、必要なものは何かを考えるようにいた人たちは言われていました。1階の書庫にあったような3年前、5年前の貴重な資料は全部駄目になってしまっただけが2階に置いてあったので。そちらの方で。でも、それでも本吉、気仙沼とか、全然何も建物もなくなってしまうところよりは、本当にまだいろいろできたんですよ。

○ボランティアを受け入れるのは、まずやってみようということ。どれくらいの時間にどれくらいできるか。

○少し落ち着いた時に他の法人とか、山形の農業者、農ガールでしたかね。普及センターなら農業のボランティア先が分かるのではないかとということで、連絡をくれたりしたんですね。私たちも農協とか、直接農家にボランティアをしてくれる人が来るんだけど、何か必要なことはあるのかをまとめて。山形からの方たちをただ派遣するわけにはいかないの、私たちも時間が許す限り一緒に行って、作業の手伝い。片づけから始まって。家のことではなくて、農業のことであれば何でも手伝いました。

質問 ボランティアの受け入れ窓口になったと？

○一部なった。他の方たち、農業だけのボランティアをやりたいとなって、どこに行けばいいのかわからないという時に、私たちが窓口になった。

○現場を持たない支援団体がいっぱい来るわけですよ。どこが良いかと。

○支援物資の1つで女性農業団体の方とか。例えば徳島のエンジン、女性農業団体の方たちの気持ちですよ。避難所とか、必要な農家とかに野菜とかエンジンを送りたいがどうしたらいいのかという相談が全国から続々と来るんですよ。パソコンとか電話を使えるようになると。そのさばき方ですよ。必要なところに電話をかけて、もちろんタダでもらえるけれども、どうですかというのを皆さんから善意の気持ちですからね。何ぼでも受け取って、それを地域の必要な方とかに配っていましたね。

③被災した農業者の「聞き手になること」の重要性

質問 それで、「聞き手になること」もかなり伺ったんですが、アンケートの中で、話し相手になることは非常に大事だということがかなり強調されていたので、ここで取り上げました。それについては、先ほども一部伺っていますけれども？

○ある方々はあまりにもかわいそうなので、行けそうにない。そうではなくて、やはり話したいんですよ。行って聞くことが重要だったと思いますね。先ほど、すごくひどく被災した方に話を聞いたとありましたが、聞く方もつらいんですけども、聞いてよかったと思います。認定農業者への調査も、確か2回くらいやりましたかね。同じ方々に2回。若干傾向が変わったんですね。1回目と。

○最初に聞いた時から数か月の間に、自分たちの環境も整ったことがあるんですが、前よりも少し前向きになっていることも分かりましたよね。

○違うんだね。

○最初、1回目に聞き取りに行った時も、段階を分けて記録をしていましたよね。自分の生活だけでいっぱいなのかどうか。それとも、ちょっと農業のこととか考えられるのかとか、そういうようなものを

みんなで全部情報共有をして。まずは聞くこと。まずは聞いてあげる。

○レベルが違うんですね。何もない人もいれば、水だけが来た人もいる。家もなくなった人もいる。家族もなくなった人もいる。自分しかいないという人もいる。レベルが全然違うので。そうすると、それを聞かないと、何が支援なのかわからないし、思っている時期ごとで人の思いも違うような感じがしましたね。

質問 レベルは事前に調べて農協とかに聞いて？

○結局は、仮設に行けば家がない人だとなるじゃないですか。あとは、石巻にいない人もいますから。仙台に行っている人とか。

○避難して親戚のうちに行っている人もいますから。

○いつ来るんですかと話を聞いて。

○最初は市町村に行って、かなり被災した農業者は誰ですかと聞いて。地域ごとに名簿を作ったんですよね。

○最初は亡くなった人は誰ですかと。認定農業者の中で。この人とこの人は死んだはずだと。

○家がなくなっていたからね。

○予備知識も入れていながら話も。

○そのレベルとか。リストを作って。

○園芸の方も、3段階くらいに分けましたね。ハウスも全部流されたとか、水で泥をかぶったとか。

○レベルをある程度とって、聞きに行くという感じですかね。聞きに行くのは、似たような傾向になると思うんですが、聞きに行くのはよかったですね。その時期ごとに変わってくると思いますよ。支援策みたいなのは、何もないわけですよ、最初は。今だとこんな立派なことをやりましたと言っていますが。何もないわけですよ。要件も情報もないし。何を提出すればいいかもわからない。

○そういう中で私たちがこういうことをやれるとは言えないわけですよ。でも、本人たちがちょっとでもやりたいという気持ちがあれば、何でも手伝った感じですね。

○特に園芸は、支援策とか、あと一番大きいのは土地とかね。最初からある程度まとまった法人とかにして、団地化していきましょと話をしたんですね、我々の方からも。今はなっているんですが。

④被災後の営農再開（農業・農村復興）に向けた普及活動の基本的な考え方

質問 要するに、この災害を機会にもう少し規模を、技術革新するとか、農業形態を変えとか、言い方は悪いが、チャンスとして新しい農業をするということが、災害がきっかけになったのではないかと。そういうように普及センターも捉えたのではないかと思っているんですが、そういうことですか？

○当初はそういう考えはないんじゃないか。

○本当に一番最初はね。

○若い方々だけは違って、最初からこれは法人化しかないということで。土地を探したり、いろいろや

ったんですね。

○今、最初にモデル的にやっている1つは自分から相談に来た人ですよ。

○4月の初めに園芸関係の農家を集めました。若い方もいたし、年配の方もいたし、という中で、私の中で若い人から聞いた時には、年配の方は自分の年もあるし、先のことを考えて農業をもう1回しようというのは、直ぐに言える状態にない人がほとんどだったんですよ。その中で年下の、すごくやるような人たちは、それが歯がゆくて、自分たちだけでもやりたいという方たちが、真っ先に法人化して、大規模で、1.2haの施設で頑張っている方たちなんですね。Aさんとかね。4月に相談に来た方だったんですね。何もなくなったから、自分たちは年寄りとは一緒にやらない。自分たちだけでも頑張ると。

○その時にこういうのをどうだという話はしているんですよ。普及センターでこう始まって、みんなでやるという話はしていた。

○あれは考えていなかった。

質問 もともとあった？震災後に考えた？

○実は私たちが考えた。

○もともと石巻は、イチゴランドみたいなどころの、先行事例はあったんですが、そのあと続いていなかった。

○大きな園芸団地の中に、何軒かの農家が入って、法人。

○その話をして、どうだという話で、土地がないんですよ。

○使える土地がない。

○普及センターで、農業振興部でやって、農地転用とかも手掛けるんですよ。情報があつたので、何か所か紹介したんですが、この年からは。

○Aさんたちが自分たちでやりたいとなった時に、土地がなくて、土地を探すのも一緒に行きました。一緒に地主に声をかけたり、全部一緒に行きました。今だったらそこばかり支援してと思われるかもしれないですが、その時は他の農家もそこまで考えが及ばない人たちが多かったの。やりたいといった人たちに私たち普及センターは全力で。

質問 やりたいといったのも若い後継者ですよ。自分のところではなくて、借りてやると？

○そうでないと土地がない。何年かしたら戻るかもしれないけれども。

質問 そういう土地探しにも普及センターは行ったと？

○行きました。

○2枚看板なんだよね。農業振興部と、農用地の話もね。

○農業委員会と話をしましたね。市町村の農業委員会と話をして、土地情報をくれと話をして、そのデータリストを作れと命令していたはずですね。

○あとは、昔からの地域の農業士とか、大きな農家たちと私たちはずっと話をしてきているので。Aさ

んとかBファームとか、熱い思いを伝えると、みんなが捜してくれたりするんですよ。議員の土地をということで。市議とか。

○飲み会とかやっている時だよ。農業士は大きいと思いますよ。

質問 通常の災害が起きない時はそういう機運にはなかなかかなりにくいでしょう？

○ならないでしょうね。開っていた土地でしょうからね。

○土地の問題は大きいですよ。

○今まで耕作放棄地とか、使われていない土地も、塩害がなかったというと、大事になる方が多くなるんですよ。貸さなくなるんですよ。

○被災した方のためにハウレンソウを作るから貸してくれと言っても、貸してくれない。

○土地は、その後に秋くらいから大曲の方からとか、あっちから何かやりたいという話になってきていたんですね。そこも相談に乗っているいろいろやっていたけれども、絵を描くときに、どこに何をやるということを出すと、話がまとまらなくなるんですよ。農地を買われちゃうとか、ここが高くなるという話になって、あまり具体的な絵を描けないんですよ。

○皆さんも被害があって、資産も無くなった方たちですから、高く売れちゃうというものについてはね。

○大体どこもあるんですが、具体的にどこになるというのと、その人が売らないとなって、頓挫しちゃうんですよ。農地の問題はすごく大きいんですよ。

質問 でもうまくやったんでしょう？

○絵だけ示して。あとは復興交付金とか、東日本農業生産対策交付金とかの制度が後からついてきたので、

質問 制度ができる前から？

○全然前ですよ。

○制度ができる前からCファームの形ができてきたんです。法人になるという形があったから、農協もそこを支援して。

○それでこれ使えるという話になった。

○事業を作る担当者が聞き取りに来たんですよ。

○こういうのをほしがっているという話をしないと。

○その時に園芸がなかったんですよ。これは駄目だと。

○制度はその時、あのくらいの震災みたいなものを想定したものはなかったですよ。

○新しく作ったね。

○復興交付金も10分の10で、それで救われた後発組の人もいっぱいいるわけですよ。

○大変だったけれども、ピカピカしたハウスを見て、自分たちもやれるという話がどんどん。やはり普及はモデルを作るのが本当に。

○最初のトップランナーを支援するのが必要ですよ。

○でも、Bファームにしても、Cファームにしても、農業士をやっていたりとか。Aさんたちは前の年に賞を取るくらいの立派なトマトを作るような方たちだったので、普及センターも技術力が高い人たちだったから、この人たちならできるなということでもやれるわけですよ。

質問 今の話は施設園芸の話ですね。果菜類ですか？

○トマト、キュウリ、イチゴとか果菜類。

質問 土地利用型農業の方では？

○除塩がならないことにはね。土地改良のハードの部分が整備されないことにはできないので。たまたま石巻は沿岸部の圃場整備をしていることがほとんどだったんですね。最中のところ。それをうまく組み替えてやりましょうという話が出てきて。我々が行っていたのは大曲。Dファームとか。その秋口くらいから話に来て、どうしたらいいかと相談に来て。それも農協かな。こういうようなのを、東松島・矢本は法人は1つもなかったの。

○生産組織があったので、その人たちと相談して。

○そのころからだんだん沿岸部に、周りに広げていきたいと思います。例えば(東松島の)鳴瀬を想定していた。認定農業者の話聞きに行くと、その時に100haくらいではないかと話をしていた。

○震災来る前からそれくらいの規模の法人を作らないと、米価下落ではと私たちもありましたよね。米に関しては。もし作るのであれば、100haくらいじゃないと大変だよねというのは、本人たちも分かっているんですよ。

○ゼロベースからですからね。土地も、機械も、資材も、場所もないし。最初は(東松島)大曲とか。平成23年の秋口から、何回も話し合いをして。そこでやる人とやらない人とか、あとは視察に行くと。そこでシミュレーションをして、こういう作物でやると1枚の絵を作って、その通りになっていますね。

質問 それは法人化まで行ったんですか？

○そうです。法人にすると言って、やれる人とやれない人。農協がその方向で進みましょうと言っていたので、良いかなと思いましたがね。法人にしてやらないとやれないですよ。機械もないし。

○でも、法人にしても、結局あと何年そこで働けるのかというのが大きな問題になりますよね。

○やはり生産組織が母体となって。

○役員と話をするわけです。

○相談に来るわけですよ。

○その人たちを中心に、もともとのつながりがあるところでない、水稲の生育調査をやっていた人とか。

質問 そういう法人化した土地利用のところは、実際に農業に携わる人は外部の人？それとも内部の若い人？

○若い人。外部というのではないですね。こう言うのは何ですが、来るわけですよ、外部の人が。いろんな人が来るんですが、あとはいなくなっているんですね。最初は、農家は技術ですね。物を作ってなんぼなんだけれども、外から来た人はそれが無いんだな。大体気持ちはあるんだけれども。志は高いが、技術がないのと、土地に根ざしていないので。園芸にしろ、やはり今まで経験と技術みたいのがすごくものを言う。もともとの農家は持っていますが、それをうまく生かした外部の人はいいでしょうけれども、それを無視した人は、消えていきますね。

質問 法人に雇われている人はいないんですか？

○地域の人が法人をやって、雇っているのは。

○地域の人。規模が拡大して雇っているのは増えたと思いますね。

○今はすごい何十人と雇っていますよ。

質問 その地域の人はずしも農家ではなくて？

○いると思いますよ。ただ、僕がいたころはまだそこまでは。建物ができて始めましょう。植えましたというところまでは。会社の形にするのが大変。1年くらいしかいない。

○やはり1件日の法人を設立する時も、本当にこの人たちにこの事業を入れてもいいのかと農協も疑っている。農協とけんかしながら、そんなことを言ったってと怒りながら。

○農協は結構固いところがある。お金を出すから。やはり、意欲だけでは駄目だと。

○そんなに普及センターは面倒見られるんですかといわれて、面倒見ますといった記憶がある。

質問 法人化する前と後では農業形態が変わる？

○変わります。使う人と使われる人と。

○個人の農家は大きいと言っても、個人の農家の集まりで法人になったと言っても、すぐにうまくいくのかと農協が我々に疑問をかけてくる。それを支援するのが農協とか普及センターだから、頑張るしかないと話をして、励ましながらやったような気がします。

質問 普及センターは素晴らしいね。

○分からないことは大先輩が教えてくれるので。

○やはりやる気のある方をまずは捕まえて、あの人だけといわれるかもしれないけれども、石巻はよかったね。それが周りになっていて。

○地域の方たちがそれを見て。

○施設園芸にしろ。

質問 方向性を示すのが大事ですね？

○ただ、本当に頑張れるような農家だったからですよ。

○前からつながりがあって、信頼関係があったから。

○そうですね。Aさんも農業士でしたからね。

質問 そういう農家がいるのを知っているから、自信をもってできた？

○そうですね。人が分かるから、私たちが仕事しやすかったんですね。

質問 逆にそういう人を育ててきた自負もあるでしょ？

○先輩たちが育ててきた。私たちが来た時にはね。代々ですよ。

質問 それが普及センターの大きな役割。

○農家も普及センターが3,4年に人が変わるとしても、普及センター自体にすごく信頼してくれているんですよ。

質問 一番重要な気がしますね、普及センターの。

○拠点的な農家とか、農業士とか、法人の社長とかは、やはりつながりがないとね。

質問 それで原点みたいな話ですが、そういう立派な農家が進めていく時に、普及センターがないと駄目だと彼らは当然思っているんでしょうけれども、その辺はどう思っています？そういう農家だけではやっていけない。普及センターがあったから、自ら聞いても答えにくいかも知れませんが、私はそうだと思うんです。農家だけではここまで行かないと思うんですが？

○普及センターだけでなく、農協とか、外部の専門家の話をいっぱい聞いている。そこと一緒じゃないですかね。普及センターも。飛びぬけてという話はないと思いますよ。

○農協、市町村と連携していたので。一緒にやったという感じですね。

○普及センターだけということはないですね。

○私たちだけで囲い込まなかったですよ。法人化支援で、Bファームとか、法人化する時にはコンサルを呼べるような感じで整っていたので、司法書士とか税理士を呼ぶにしても、県の関係機関から派遣してもらって、そうする時には必ず役場とか農協とか、みんな入れて、1回で打ち合わせをした方が、みんなで情報共有できるので、何か土地の問題でも、なんでも困った時でもすぐに皆さんで解決できるので。やはり情報共有が良いですね。

○皆、そのうちの1つだと思いますね。普及センターは。

○どこに相談してもらってもいいと思うんです。

質問 きわめて謙虚なんですけど、私は普及センターの必要論を世の中にやらなければならない。だから、普及センターがなくてもできるというのはなくて、こういうところは普及センターがあるから行くんだ

というところが、ずばり、どういう部分が普及センターの役割を果たしているんですかね？

○僕が思うには、みんな意欲とかあるんですが、具体化して紙に落とすとか、そういうのがなかなか難しいんですよ。法人の人とかね。そういうことなどを親身になって、まとめあげる力というのは普及センターだと思いますね。支援していくというのは。

質問 それは農協とか市町村でできないわけではない？

○市町村はまず無理だと思いますよ。

○今の仕事以外のことはそんなにできない。余力がない。

○平常時でも無理なのに、市町村は人がいない。

○農業の技術を持っているところがやらないと無理だと思いますよ。

質問 市町村は無理だと。では、農協は？できる農協は全国にあると思いますが？

○逆に言うと、土地利用型の話は農協ができないから普及センターにお願いしますという話でしたよ。法人化とかの話は、農協はなかったです。農協の内部でも法人を進めるのは良しとしないところもありますから。

○そうですね。農協離れしてしまうところも出てくるからね。

○当時はですよ。今はどうかわかりませんが。

○園芸もありましたよ。震災とは言いながらも、法人化であまり大きくなりすぎると農協離れしてしまうのではないかということで。そんなことを言わずに信じて下さいよという感じで。

○石巻農協はまだいいと思いますよ。そういう方向性がもともとあった方だから。

○普及センターのみがやったんじゃないので。ただ、その地域の機関がうまく機能して、そういう意味では必要だったということではないでしょうか。普及センターだけではできませんし、他の機関だけでもできませんし、うまく機能して、それぞれがあって、動いたという感じだと思いますね。そういう意味では必要だったと思っています。

○まず、市役所としての機能が働かない状況。無理ですね。農業の話ではないですからね。

○生活が主ですよ。生活のインフラを整えるだけで精一杯なので、産業としての何かというのは何も考えられない状態だった。

○石巻は、本当は一番被災した市町村なんですけど、あまり取り上げられないですよ。工場、会社が沿岸部にあるし、全ての面でひどいですが、あまり取り上げられないですよ。

○石巻は大きすぎましたね。

○むしろ、支所の方が動いていましたね。

○行政自体が合併しているんですね。それで、石巻市自体合併の弊害が出たということを当時から聞いていました。

○本庁は旧石巻市で手いっぱいな感じで。

○市における農業の位置づけがね。漁業の方がね。

⑤今まで経験したことがない放射能対策（放射性物質対策）をどのような思いで、どう進めたか

⑥風評被害対策の実態とその払拭に向けた普及活動の基本的な考え方

質問 次に進んで、石巻市は原発の関係はどうだったんですか？原発の影響は？

○原発も分からないんですよ。最初は。うわさだけで。テレビも見ないし、新聞も来ないし、ネットもつながらないから。

○新聞見たのは、仙台に行った5日後とか。全く分からないです。

○だから降り注いだといわれる16、17日くらいは、雨の中普通に歩いていました。

○それが危険だという話は後から全部。あの時の雨だったんだと。

○帽子をかぶっていたけれどもね。

○なんで高いのかねと。女川の原発は大丈夫なのかと言っていましたよね。でも、こう廻って降り注いでいるのが宮城県に来ているとは思っていない。普通に野菜を送っていたでしょう。

○喜んで食べていましたね。貴重な野菜を。

○まず、食べることだから、放射能の話よりも。

質問 私は八王子に住んでいますが、我々の方が先に。あの翌日から子供のいる人は水の確保であちこちをね。

○みんな知らないと思いますよ。

○水が飲めれば、井戸水でもなんでも。水さえもなかったから。

質問 新聞、テレビのニュースが人らなかった？

○全くないです。ただ、避難所ではラジオをずっとつけていましたが、電池がなくなったり、電気がなくなって、途中からまったく情報がなくなりました。

○だから見ていないですよ。津波でこうなるのをみんな見たというじゃないですか。あんなの全然見ていない。

○ある程度整っているところでないと情報が入らないので、同じ石巻の中でも本当の海側とか、旧北上町とかの人たちは最後まで情報が入らなかったんです。

質問 石巻ではないけれども、閑上の方で、自家川車が津波から逃げているのを見ていた。

○県庁の人たちはあれを見ていて、あんな感じでみんな巻き込まれて、死んでしまったと思ったそうです。

○その割に、県庁の人は FAX で情報を送れとか、メールを送れとか。でも、メールなんか送れるわけではない。報告しろと言われても、できるわけではない。

○どこまでつながっているかわからないわけですよ。とりあえず、皆さんやれることをやっていたと。

質問 原発の被害を受けているのを分かったのはいつ頃ですか？

○それだっただぶんあとからなんですよね。少しずつ情報がいろいろなのが来てからじゃないですか。

○1 週間後くらいじゃなかったかな。草地で放射能が出たというのがあって、野菜を直売所に出すなど指示が来て、直売所とか道の駅にお願いに行った。

○放射能の仕事はしていなかったな。石巻では。

○3 月中は市場の機能がなかったので、農家も野菜を収穫できなかったんですよ。かといって、その野菜収穫できなかったものも避難所にも持っていけなかった。というのも、避難所は生野菜を受け入れれないということで、駄目だったんですね。だから、農家自体も出荷はできなくて、あげられる人にはあげたという状態があって、みんな私たち食べていましたね。3 月中もありましたよね。

○そのあと県庁に異動して、放射能とかやっていましたが、あとから見ると3 月中に市場に出荷停止を命じているんですね。出さないで下さいと。でも、そのころは何が基準かはわからないし、なんで出ているのかもわからないので、とりあえず止めると。その後に、どこでセシウムを調べられるかということで、東北大でやれるという体制になってきてから、定期的に調査を始めた。3 月中にやっているんですね。県庁の中ですよ。あとから担当したのでわかったんですが。最初は生鮮で、ホウレンソウとか、結局降り注いでいるから、非結球性のね。そのあと稲わらの話になって、最初はなんで稲わらで出るのがわからなかったですね。結局、セシウムを集めていたようなものなんですよ。もともとの放射能の知識がなかったから。

質問 石巻普及センターに限って言えば、避難所でやられている当時は、特に原発の特定の仕事はなかったと？

○なかったです。

○部としてはやっていません。

○その後、検査とかは来ていましたよね。

○県庁で一括して、他の普及センターにもやるような段階ですね。私たちが自主的にというのはないです。なんでそれが駄目なのかわからなかったですね。

○それよりもまずは目の前の。

○食べることで寝ることと仕事に行くことと。

質問 結果的には石巻では放射能の被害はなかったと？

○その後、測るようになってから、北限のお茶とかね。高いというのが分かって、対策とかという話はその後ですね。

○検査しないことにはわからなかった話ですよ。

○23年度は、あまり気にしていませんよ。24年からですよ、放射能の話は。

○周りが整ってきからの気がします。

○基準値超過は24年です。基準値もいろいろあったじゃないですか。400ベクレルとか。100になってから、宮城県は最初にブルーベリーで出て、お茶で出て、ソバで出て。そういう話ですね。

質問 24年に分かってきたと？

○たまたま私は園芸の担当となりわかるわけで、石巻ではあまりないと思いますよ。県全体の話で。石巻では放射能はないと思った方が良くと思いますよ。

○津波で水をかぶっていたので、水とともに流れた。

質問 風評被害も石巻はそんなに受けていない？

○宮城県ですから。県全部同じになってしまうので。農産物が県内だけで流通しているわけではなくて、他の県に行っている場合は、宮城県もしくは東北地方ということで同じですね。

○関西には行ってないと思いますよ。遠くの人になると1つになってしまう。宮城県の方は、石巻と丸森は違うと分かりますが。

○園芸関係は、九州に出していないが、野菜は近場で、東北の人たちは、放射能は同じですけども。米は関西圏に出しますが、それは大打撃ですよ。米農家から、クレームというか、大変だったというのはすごくありました。有機をやっている米の方たち。単価下がるところか、取引してもらえないというのは、野菜じゃないですよ。米の方ですよ。

○流通の範囲によって違う。

質問 風評の方ですよ？

○そうですね。

○基準値を超えていないですから、全部風評ですよ。

質問 そういうのは対策の仕様があるんですか？

○きちんと調査をして、証明をしてもらうことしかまずはないので。

○継続することしかないですね。放射能は検査を今でもやっていますが、週に何回とかね。モニタリングをしてやると。

○ホームページでいち早く出してもらうわけですよ。どどこ産の何々が今週大丈夫ですよというのを県の方で出してもらって、安心ですからこういうのを見て下さいと言ったり、もしくは個別の農家は検査してもらっていますので。

○何が大変だというと、検査するまでは出さないでくれという話になるじゃないですか。出荷自粛ね。だけど、それをしたくない人がいるわけですよ。

○さっさと出したい人がいるんです。新米はなんぼでも出したい。

○それが大変でしたね。

○今でも大変です。

質問 そういう要請は普及センターもやるわけですか？

○それは県が主体で、普及センターに任されている。

○モニタリングをやっているのは普及センターですからね。

○計画を立てる時には農協とか役場で、どここの地域でサンプリングをしようということ言ってくれますが、実際にものを取りに行ったり、測ったり、情報の開示は普及センターですから。仕事が増えちゃったんです。

○対策だと言われても、何が対策かわからないですから。カリウムとかが良いという話になったのは、2年後くらいですよ。

○時間が経ってからですね。私たちが試験をできるレベルではないので、そういう知識がある方たちから教えてもらった中で対策を立てるしかない。うちだけで完結するものではないので、全国の方から教えてもらって、できる対策だと思うので。

○稲わらからくっついたのが、セシウムだというんですが、大豆とかソバとかは吸ったやつじゃないですか。吸ったやつを吸わないようにする対策は、それこそ24年度の末くらいとかね。それまでは対策がないので、洗って食べてくれと。

○なんで大豆が高いんだと。

○なんで米で出るんだとかわからない。

○本当にその対策が良いかどうかをうちの普及センターで言えるレベルではないんですよ。こういうのは国とかでちゃんとやって、揃えてもらわないと。

○東電の賠償とかは普及センターの技術的な資料で、これこれはこんなふう以降ったと言ってくれと、行政の関与があればお金を払いますよと言われるが、そんなのは当時ないわけですから。何が正しいかわからない。技術的な資料を東電の賠償のために出してくれというのは普及センターで多いですよ。

○対策会議の技術資料で出たと言われても、農家もわからないわけですから。

質問 昨日の聞き取りでも、農家から言われても分からないからストレスがたまると言っていたし、普及センターとしても個人としてもどうやっていいかわからないと。

○でも、互理などはみんなと話し合えるじゃないですか。それができただけでも本当にすごくいいと思います。すぐに返答できなかったのは、とても申し訳なかったと思いますね。

○でも、石巻はそれほどではなかったからね。

○6月で転勤をして、大崎に行きましたが、すぐに放射能対策。

○沿岸部の塩害とか、基盤を高めるところに精いっぱいなところと、それはどうにかクリアしているので、目の前の放射能の方に対策をしなければいけない地域とはまた違ったかもしれない。時間差があったかもしれない。

○それこそ違う世界。

○今でも違う世界だよ、石巻とは全然。今も人は全部変わっちゃっていますからね。

⑦普及活動に対する他県等からの支援（連携を含む）の必要性と支援を受けるときの対応法

質問 それでは、次に行かせてください。他の県からの応援というのは石巻であったんですか？

○熊本県から来てくれましたね。

○県全体ではかなり県から支援を受けています。恒常的にかなり支援を受けていまして。

○本当に技術支援に来たのは、熊本県までしかわからないですが。

質問 熊本県は昨日もうかがいましたが、除塩でしたっけ？

○除塩です。

○ハウスの。

○あと、ハウスの水の確保。

○雨水も熊本県ですね。建物を建てるにしても、水をどうにもできないような状態だったので、本当に熊本県の方たちに。本当に技術ですよ。労働提供までしてもらって、実際に働いてもらって。作業着で、みんなで普及員も含めて働きましたね。

○あとは県全体で、普及に限らず他の県からね。互理はイチゴの話が一番大きいですね。栃木県の苗の話とか。石巻で直接の話は聞かないですね。

○他の普及センターで、普及センター職員を派遣するのはなかなかないですよ。県職員で自治体は県で精いっぱいだったんですが。

○あとは、熊本県とか九州の人は、移住営農みたいな話できていましたね。被災した人ももう駄目だから、熊本県に来ませんか。それで何回も来ましたね。

○北海道も来ましたね。

○移住した人もいますよ。互理とかね。

○宮城県からも何件か来ましたが、石巻でやりたいという話が出なかったですね。

○移住営農とかね。実際に互理から北海道に行った人はいますからね。熊本県から何回も来ましたからね。兵庫県あたりからも来た気がしますね。応募する人はいなかったですね。

○他の県なりに宮城県とか被災した県でできることを考えてくれた結果、受け入れもできるよということだったんでしょうね。うちでできるから、ぜひ来て農業をやってくださいということだったんでしょうが。

○雨水とか、除塩は熊本県の高潮でやられた経験をいろいろとやっていただいた感じはしますね。

○結局、普及センターも受け入れる対象農家のコーディネートとかやったのは、農協と一緒に普及センターがやったんですよ。

質問 それは、県内では一番被害が大きかったから車を借りたのもそうなんですか？

○車とか資材とかね。人も借りましたよね。

○来てもらった。

○引っ越しの時は来てもらいましたよね。

○来て何をやってもらえばいいかわからないからね。1回か2回ですね。機材を借りました。

質問 7月の異動の時に人数が増えるとかありましたか？

○増やすという話出しましたが、数人とか増えましたね。本吉とかね。

○石巻は増えませんでしたね。何もなくなった本吉は、データベースの整理とかあったかもしれないので増えたのかもしれませんが。

○7月に来た人は気の毒でしたね。

○動けませんよね。人も分からないし、道路もないし。

○便利のいいところから不便なところに来てね。

質問 異動はもっと遅らせた方が？ 分かる人でやっていた方が？

○分からないです。

○人によってはそこにいるだけでストレスになっている方もいたと思いますよ。

⑧大災害という異常時の普及活動で生じるストレスの内容とその対処法

質問 次のストレスのところをお伺いしましょう。これだけのことでストレスは大きかったと思います。農家のストレスと普及指導員のストレスの2つに分けて伺いたいんですが？

○農家のストレスと言うと、被災の状況によってかなり違います。人生終わったと思うくらいの人から、よし、またやろうという人まで、全然違うんだと思います。

○農家でも、被災が少ない人でも、逆に被災が多かった農家に申し訳ないという気持ちで、動けない人たちもいるんですよね。自分だけ助かっちゃってという方もいて。でも、そんなことないよ、やれる方がやらないと駄目だと支援するしかないんですが。農家自体も、自分で変な負い目を受けるというか。被害が甚大な地域だったからなおさらなんでしょうね。

○あとは、自分の収入源の仕事がなくなったということに対するストレスもかなりあったような。まず何か仕事をしなければならぬという。

○ストレスはあるんじゃないですか。人それぞれだと思いますね。レベルがありすぎて。何もないという人もいますからね、石巻でも。

○することさえなくて。

○何もない人もいれば、普段通りの生活に戻った人もいますよ。そこのレベルがね。

○直ぐに元気になった人もいますし、全然違う。

○どっちも対象の農家なので、どちらかというわけにはできないじゃないですか。だから内陸部の人にも比較的影響なかった人にも普及活動はしなくてはいけないよという話はされましたね。次の所長がね。ストレスの状況はいろいろだよな。

質問 特に農家の方々のストレスは、最初にあったような「話を聞くこと」がストレスに対しては一番よかったんじゃないかと思うんですが、そういう理解でよろしいでしょうか？

○そうですね。

○私たちは聞くことしかできないから。

○大変だったねと一緒に言ってあげて。何ができるかを一緒に考えてあげて。その程度によりますからね。

○まずは聞くことをしないと。

○やりたいと思った若い人たちが、何もやれない、状況が揃わなくて、何もない、土地もない、という時にAさんとかはストレスだったみたいですね。周りが動かなくて、支援がない時に自分が動きたいという時に何もないのはストレスだったと思いますね。

○本当にストレスで動けない人には、あまりあたっていないかもしれないね。普及センターは。それは何年かたってからの話かもしれないです。石巻の大川の人とかは、あまり僕らがいたころはそんなに来ていないですもんね。

○たぶん1回目の聞き取りに行った時に、しばらく何も考えられないという方とかは、頃合を見計らないと私たちも入れないわけですよ。

○大川の奥の方では、不明者を探したりとかしていたもんね。

○大川の奥でも、Eさんみたいなやる気のある方には、私たちがガラクタ整理とか手伝いましたもんね。

○普通の農家で、普通に被災をした人まで普及センターで手が届いていたかというところ、そこまでは回っていないね。できないもん。

○そうですね。

○認定農業者とか。

○震災以前だと、ちょっとしたことで電話をしてくるような人もいたじゃないですか。でも、ここ数年間は全然なかった。みんな分かっているんでしょうね。そういうことでは相談しては駄目だと。本当に困った人が相談してくるので。

質問 そういう人は兼業農家で、生活再建が第一？

○そうなんです。農業よりも生活がね。

質問 普及員のストレスはどういう感じだったんですか？

○大変だったと思いますよ。

○今まで1時間かからずに来ていた職場に、全国からの支援の環境が整ってくると、車の渋滞が始まるわけですね。仙台付近のホテルに泊まって、被災地にボランティアで行くと。そうすると、毎朝3時間くらいかけて通勤しなくてはいけなくなると、それだけで疲れるんですよ。単純に体が。あと、車で道のりも、映画のような何もなかった光景で、あそこに何か埋まっているよなという感じを毎日時間をかけてくるのが、それだけで。あの時ほど仕事を辞めたいと思った時はないですね。つらいと思いましたね。ここが田んぼだったと思えないくらいいろいろなものが埋まっている。本当にひどすぎるところは何もなくなるんだと。平地になるんだと。ひどすぎるところから、ゴミがたまるところはまだ波が弱かったところで。

○最初は違う世界に入ったような感じでした。

○道路もなくなってしまって。

○私は、見るものがすごいし、聞くもの、臭いとかも、違う感じなんですね。そして、自分が何もできないですから。車もないし。それがストレスでした。なんて自分は何もできないんだと。そういうのをずいぶん。

○車が揃うまで、私も何もできなくて。電話がない時がつかったですね。何もできないなど。

○それから、何かをやっても、果たしてこれでよかったのかどうかというのが、ずいぶんありました。今でもそう思います。

○環境が整わないことがストレス。まず拠点がなかったことが一番のストレス。

○一番ぐっと来たのは、合庁にも行けないし、職員がどこにいるかも分からないし、津波がどこまで来たのかもわからないし。合庁にはたどり着けないし、電話も駄目だし。

○県職員同士でも縄張りができちゃうんですね。そうするとさっきの車を貸してもらえない話になるんですが。やはり、下水道事務所の軒下に寝ているのだって駄目だと言われる。なんでこの廊下にいるんだという話にもなるんですよ。皆、いきり立っているから。同じ県職員なんだからと思ってもね。

○部屋でなくて、廊下にいるのも駄目だと。

○なんで廊下にいるのに机を出しているんだと怒られるんですよ。

質問 労わるというのではなくて、逆なんだ？

○労われないですよ。自分たちも。

○土木自体も道路の復旧で、かなりあれだから。

○拠点を確保するまではストレスがあるね。殺気立っているから。自分のこととか、自分のセクションの話になりますよ。

質問 それだけ一生懸命なんでしょうけれども。

○幅広くという話はないですね。

○数か月たったくらいで他のところを見れるようになって、体育館に行ってからよくなったと思います

ね。同じ事務所でみんなが働けるようになると、すごくやりやすかったです。

○人の顔も見れるしね。

○まず拠点が無いのがつらいですよ。ストレスがね。

○整うまでつらいじゃないですか。

○単純にあそこの資料を見れば答えられる気がするけれども、資料がないと、パソコンの電源がないと探せない。行く車もないと。それがつらかったですね。整ってから、少しずつ動き出したという感じ。

○ゼロからだんだん良くなっていくんですが、途中から赴任した人は本当に大変だと思いますよ。1週間くらい熱が出て来られなくなったという人もいますからね。ストレスですよ。

○最初から見ているからですよ。

○朝、通勤できないですからね。

○3時間とか。

○ガソリンも満足でないし、ものが無いのがつらいですね。拠点到備えておかないといけないですね。

○そうなんですね。本当にそれが分かりましたね。

○ツール、資材。

○対策を練っておくと。

○名簿とか大事。技術資料とか。その建物自体が壊れると考えれば、どこかにサーバーがあればいいんですが、お金がないから。

○そういうのがないですもんね。あとは、壊れない物とか。周りにもものが紙とか鉛筆とか、当たり前のことだけでも、最低限安定して使えるもの。

質問 それが口誌というんじゃないですが、そういうものは今されていない？避難とか、ソフトの面で、こういう場合にこうしようというものは？

○今、石巻ではないのでわからないですが、この合庁がなくなったら次にどこに集まるという話も決めていないですよ。

○例えば津波が来る地域じゃないですか。今回分かった通り。その時に公川車で他のところに会議に行った人が、地震になったから事務所に戻らないと駄目だから戻ってきた方がいるんですが、本当は戻ってこなくていいんですよ。津波が来るところには、一人は家に帰った人がいますよ。一人は戻ってきた人がいますよ。でも、戻ってこないのが正解で、その時に事務所は工事をしていたので、工事現場の方たちは外にいて、工事現場は県職員関係ないので、地震になったら避難、帰れとなるんですが。県職員は、県職員だから戻って来なくちゃと言って、戻って来て。戻ってこなくていい時もあると思いますよ。自分の身を守った上で人を守るならですが。危ないところまで戻らなくてもいいんですよ。自分が安全確保したうえで、人助けとか支援もできるでしょうからね。そういうのが、その時に整っていなかったかもしれません。

○とにかく、通常ではないので。

○24 時間勤務みたいな話になったからね。

○2 泊 3 日で市町村に行ってこいとか、避難所に行って来いという話もありますからね。とにかく不規則で、機材もないし、そのうえ地震が残っているし。5 月にもあったよね。津波警報は鳴るし。音が鳴ると今でもね。

○私もいやです。

○警報。あれを聞くと、心臓がおかしくなりますよね。

○私はこういう話をしているだけでも、すごく嫌なんです。重いなど。

○どこかにバックアップをできる場所があれば。最初から決めておいて、美里に行ってやるとかね。そういうのを決めておけばよかったかもしれませんね。ないんだな。

⑨今、被災直後の状況を振り返ってみて、震災後 4 年半を経過した現状に対する率直な感想。また、今後の災害時の教訓として普及指導員に伝えておきたいこと。

質問 最後のこれを教訓に今後の世代の人に残しておきたいということがあれば伺いたいんですけども。今までの繰り返しのことでもいいんですが。

○私は車とか紙とか鉛筆とか、ものが無いところから苦しくて、普及員は人と話して仕事をする人が多いのに、そこまでいけないとか。あと、技術を提供できないとか。資料も何もなくて。そういうところが大変だったと思うし、車があればできたんじゃないかと思うところがいっぱいあります。

○車、足の確保、機動力が大きいですね。

○あと、他の関係機関との連絡を取るような電話とかもつながっていなかったのも、そういうのを。

○無線とかね。

○無線は思いましたよ。消防、防災無線とか。タクシー無線とか。ああいうのがあったら。

○携帯を導入する時に当初無線を入れようとしたことがありましたが、携帯が普及してキャンセルになったんですけども、それをやっておけばもしかして。

○あまり複雑なシステムがやられたときには、復旧まで時間がかかるから、トランシーバーみたいな。これはどんなことがあっても簡単だからつながるみたいのがあればね。機動力と通信の確保。一番は拠点だけでもね。

○ちゃんと働ける環境整備をしてもらわないと、私たちも安心して働けないので。

○一つのつながりがあったから、ある程度早めに組織ができてきたんだと思うんですよ。あるいは対策会議ができたと思うんですよ。やはり普段から人のつながりというか、そういうのが必要だったなと思います。

○そうですね。

○声をかけてすぐに集まる、体制をとっていただけましたもんね。

○調査をすると言ってもね。

○さっき、農協の2階に地方振興事務所が移ったと言っても、あれも普及センターが農協につながりがあるからはいれたんですよ。他の人たちは何もつながりがないので、頼めないわけですよ、どこにも。

○組合長に直々に言って、了承してもらったんですよ。

○それで地方振興事務所全体がそこに入れたんですよ。頼みにも行けないわけですよ。足がかりも手掛かりもないし。偉い人がいても駄目なんですよ。

○前の仕事が団体指導検査課ということで、組合長を知っていたんですよ。

○食べ物も、結局、調達しなければいけないですが、農家をお願いをして買ってくるということもね。

○総務からお金を預かって、私たち女性普及員が、職員が働けるような環境づくりをするためにも農家をお願いをして米を買ったり。

○農林関係の事務所だけでなく、教育事務所とか、全部ね。

○全部です。合庁の全部です。そういうのもつながりがないとね。スーパーに行っても売っていないですからね。閉鎖して、棚にもものがないから。

○農家のハウスに野菜があるから。

○どこどこ産地なら被害が少ないからお願いできるのではないかと知っている普及員はすごいと思いますよ。

○普通の人には分からないですよ。

○なぜ来たんだとなるからね。

○やはりつながりがあるから。

○梅干しは誰とか、野菜は誰とかね。

○自分で農家をやっている普及員がいるからかもしれませんが。仙台市内の人はスーパーに行っても、スーパーは開いていないし、ものが無いし。コンビニもやっていないし。

質問 我々も翌日コンビニにお結びを買いに行ってもないし。仕入れられないという状況でしたよ。

○食べ物はつながりでね。人とのつながりは口ごろからね。その人がいなくなっても、普及センターだと言ったらわかるじゃないですか。頼めるところがあるというのはね。水だってそうですよ。結局、水がないと井戸に水を汲みに行くのも、そこら辺の近くの農家に行って、普及センターが来たけれども水をくんでと。

○あと、例えば女川では米はあるが玄米だったと。

○精米機の調達したんだよね。栗原の方から借りてきて、避難所に必要な米を渡すのに精米機を借りましたよね。

○結局、玄米で来るんですよ。米はあるけれども食べられない。それで精米機を調達してくれと。それで持っていきましたよ。2台かな。土地勘があるとか、人とのつながりがあるというのは、情報網じゃないですが、頼めばやってくれるというのは強いですよ。

○合庁の避難先の専修大学の体育館の駐車場に職員が何百人も来るんです。駐車場が大変でした。

○合庁職員の駐車場も探してくれということで、それも普及センターがやっていますから。

○合庁職員が周りにコンビニないので、生活研究グループでお昼にお弁当を売りに来てもらいました。

○お弁当の手配とかやりましたね。

○普及センターが合庁全体のインフラ整備ですよ。

○農家はわかっていますからね。あそこの誰々さんが言うことだからとね。

○私たちは自分の仕事ができるように環境整備をするだけで精一杯でしたよね。

○その中で水の調査をして、土の調査をして、話をしてということをやったからね。

○そうですね。試験場で土壌関係のマップを作るときに普及センターを頼られて。私たちは土地勘があるから、道路がなくなってもこの辺だよと。全部連れて歩いたりしていましたよね。

○水田がどこまで水が来たかとかね。

○調査をするにしても、どこの誰のところの田んぼをやるんだと言っても、それがいいわけじゃないですか、試験場ではね。さっきの調査をやりたいとかいうのも、人と場所とかを全部普及センターがやるような感じでしたね。

○それもやれそうな方が分からないとできませんよね。

○結局最後の出口の設定をやっているわけですよ。農家とのつなぎ役をやっている。あそこの誰が良いんじゃないかというのがすぐに出るとというのがすごいと思いますよ。

質問 それは普及員の頭に入っていると思うのですが、組織でデータベースは作っているんですか？皆さんの頭の中に入っているわけでしょう？

○頭の中に入っているのも、みんなで情報交換しているんですよ。この前、誰のところを見に行ったが、どうだったよというのをみんなで聞いているので。

○あと、日々議論しているので。

○拠点とか、課題に取り組んでいるところとかね。

○石巻は直ぐに集まって議論をしている。椅子が反対向きで、くるっと見て、すぐにね。そういうのが多くて。

○毎年、転勤時には職員が少し変わるけれども、情報はつながっているんじゃないですかね。

質問 皆で共有して、それが土台なんじゃないかな？

○そうですね。名簿とかあるでしょう。あと、代々この人はという感じで。

質問 伝統的と言っていいんですかね？現場と普及センターが付き合ってきた伝統が？

○そうですね。農家は普及センターという安心してくれるところがあるから。

○普及所だな。

○センターではなくて。

○一般行政の人は顔が見えないですよ。顔が見える仕事ばかりやっているから、不安ですよ、我々は。誰がどこで何をやっているのかが分からないと、ものを進めるのが不安じゃないですか。でも、一般的な行政は紙に書いてあるもので、人となりが分からなくても進めるところがあるじゃないですか。現場を持っているのが強いと思いますよ。

○皆さんがどこまでやりたいかということをや々変わる気持ちの中で、ある程度把握していると、数年経ったりして、何かやりたいとなった時も、あの人はこれをやりたいと言った時にこれが良いんじゃないとすぐに言えますよね。

○県職員ではすごく異質な仕事だと思いますけれども。だから叩かれる。

質問 異質と思っています？

○全部から思えば、県職員としては異質だと思いますよ。良いとか悪いとかは別にしてですよ。特異な存在だと思いますね。

質問 そういうことがすごく大事だと？

○そう思いますね。そういう仕事をしていないですよ。他の部署とか。人を分からないようにするところが公益で薄められるみたいな話なんだけれども。

○私が農家の家庭環境を分かったうえで指導するわけじゃないですか。そんなに人の家のことが分かるということが他の部署の人は不思議だと思いますよ。今、こういう家庭環境だからこれができるんじゃないと指導するのは、他のところではやらないわけですよ。

質問 これからも大事だと？

○やらないと駄目じゃないですかね。人が分からないと指導できない気がしますね。